

令和5年度 第1回在宅医療・介護連携推進会議

次 第

日時 令和5年7月13日（木）午後7時から

場所 Web会議及び小金井市医師会館3階会議室

1 開会

2 委員自己紹介及び事務局出席者紹介

3 委員長及び副委員長選出

4 会議録の作成方針

5 議題

- (1) 令和4年度における各事業実施実績について【資料1】
- (2) 令和5年度における各事業実施予定について【資料2】
- (3) 令和4年度における小金井市在宅医療・介護連携支援室の実績について【資料3】
- (4) お元気サミット・介護みらいフェス合同事業について
- (5) 各部会における検討状況について【資料4】
- (6) 小金井市在宅医療・介護連携推進のための基本方針について【資料5】

6 その他

次回開催予定 令和5年10月19日（木）午後7時から

7 閉会

【配付資料】

- (1) 令和4年度における各事業実施状況について
- (2) 令和5年度における各事業実施予定について
- (3) 小金井市在宅医療・介護連携支援室 令和4年度 事業概要
- (4) 小金井市在宅医療・介護連携推進会議各部会における検討状況について
- (5) 小金井市在宅医療・介護連携推進のための基本方針について

令和 4 年度における各事業実施実績について

※ 評価基準

- A：ほぼ事業内容を達成した。
 B：改善、検討を要する点はあるが、事業内容をある程度達成した。
 C：事業内容を達成したとは言えず、現状について大きな課題がある。
 D：未実施

No.	取組	事業概要	事業区分	令和 4 年度 実施予定	評価	実施実績
①-1	小金井市医療資源マップの作成	市民に医療資源に関する情報を共有するため、医療マップを作成の上、配布する。	ア 地域の医療・介護の資源の把握	配布・検討	B	市ホームページへの掲載、介護福祉課窓口等での配布により普及啓発を行うとともに、お元気サミット・介護みらいフェスの来場者に配布
①-2	介護サービス事業所一覧の作成	市民に介護資源に関する情報を提供するため、介護サービス事業所一覧を作成の上、配布する。	ア 地域の医療・介護の資源の把握	配布・検討	A	4月、7月及び10月に更新作業を実施。介護福祉課窓口で配布
①-3	患者基本情報シートの作成	入院時に病院が使用することを想定した患者基本情報シートを作成し、ケアマネジャーへ配付の上、運用を開始する。	ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進	—	—	令和 3 年度中に取組廃止を決定済み
②-1	在宅医療・介護連携推進会議の実施	地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握・共有し、課題の抽出、対応策を検討する。	イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	実施	A	在宅医療・介護連携推進会議を 3 回実施 また各部会を計 1 3 回実施
②-2	小金井もの忘れ相談シートの活用	認知症に関する家族・相談機関が連携して支援を続けるための相談シートの普及啓発を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	A	市ホームページで普及啓発を行うとともに、民生委員による 75 歳・80 歳訪問の際に「高齢者福祉のしおり」を配布しており、そちらにも掲載し、普及啓発を図っている。その他介護福祉課窓口等にて配布
②-3	主治医連絡票の活用	主治医とケアマネジャーが共有し連携を取りやすくするため、連絡票の普及啓発を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	A	市ホームページに掲載し、普及啓発を図った。 令和 3 年度から「介護支援専門員（ケアマネジャー）向け書式等」のページを作成し、もの忘れ相談シート等と併せて普及啓発を実施
②-4	ケアマネタイムの活用	医師と連絡が取りやすい方法、曜日、時間帯等を示した一覧の周知を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	A	4月に医師会から情報提供を受け、同月中にケアマネ向けにメールにて配信済み。希望者には介護福祉課窓口でも配布

No.	取組	事業概要	事業区分	令和4年度 実施予定	評価	実施実績
②-5	情報共有研修会の実施	医療・介護事業者等の関係機関の情報共有に関する研修の開催、関係機関同士の情報共有の支援等を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	実施	B	別紙「資料1-2」のとおり
②-6	在宅医療・介護連携支援室の設置	在宅医療・介護連携に関する相談窓口を設置・運営することにより、連携の取組を支援する。	オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援	実施	A	支援室を設置し、医療・介護関係者からの相談等に対応 詳細は、別紙「資料3」のとおり
②-7	在宅医療ケア勉強会の実施	医療・介護事業者等の関係者に対して在宅医療・介護連携に関する研修等を実施する。	カ 医療・介護関係者の研修	3回以上実施	A	5回実施 詳細は、別紙「資料1-2」のとおり
②-8	北多摩南部保健医療圏リハビリテーション実施機関ナビの作成協力及び普及啓発	北多摩南部保健医療圏地域リハビリテーション支援センターが作成する実施機関ナビの作成協力・普及啓発を行う。	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	普及啓発	A	更新に係る確認依頼等がなかったため、特段の対応なし。必要に応じて市民等へ案内を実施
②-9	近隣市在宅医療・介護連携支援室等との情報交換	近隣市の在宅医療・介護連携支援室職員との情報交換を行い、自治体間での連携を強化する。	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	実施	B	支援室にて、電話・訪問・MCSのグループにて連携・情報共有を行った。 東京都在宅療養支援窓口取組推進研修に参加し、他自治体の事例について学ぶとともに、グループワークにて他自治体の支援室等と情報共有を行った。
③-1	お元気サミットin小金井の開催	在宅医療・介護連携に関する情報の普及啓発のため、講演会、シンポジウム等を開催する。	キ 地域住民への普及啓発	講座満足度 78%	A	令和4年11月9日及び10日に小金井 宮地楽器ホールにて「お元気サミット・介護みらいフェス」を実施 来場者 211人 講座満足度（未回答を含む。） 86.57% （未回答を除く。） 98.31%
③-2	在宅療養についてのリーフレットの作成	在宅療養に関する普及啓発のため、在宅療養リーフレットを作成の上、配布する。	キ 地域住民への普及啓発	配布	A	令和2年度に改訂を行い、市ホームページへの掲載及び介護福祉課窓口等にて配布 「看取りについてのリーフレット」を新たに作成し、市ホームページへの掲載及び介護福祉課窓口等にて配布

令和 4 年度小金井市在宅医療・介護連携推進に係る研修の実施状況について

1 在宅療養推進事業

No.	開催日	名称	内容	講師 (敬称、所属等省略)	参加人数
1	令和4年10月12日	I C T 研修会	M C S の患者グループ、こうやって使ってます！	I C T 連携部会	33人
2	令和4年10月27日	第 1 2 回多職種連携研修会	地域包括支援センターってなにをすところ？	市内各地域包括支援センター 管理者	45人
3	令和4年11月15日	看取り講演会（第 1 回）	自宅で逝きたいは叶えられるのか？～市民向けパンフレットを使用したACP（人生会議）～	桜町病院 大井裕子（医師）	51人
4	令和4年12月7日	看取り講演会（第 2 回）	実践編：使用してみた印象を共有する	桜町病院 大井裕子（医師）	25人
5	令和5年3月22日	第 1 3 回多職種連携研修会	地域包括ケア病棟と地域の連携とは？	桜町病院 大槻一美氏（看護師）	43人

2 在宅医療・介護連携推進事業

No.	開催日	名称	内容	講師 (敬称、略歴省略)	参加人数
1	令和4年5月17日	第 2 3 回在宅医療ケア勉強会	訪問薬剤師さんのお仕事って？～事例を元に理解しよう～	アトム薬局 佐藤雅彰（薬剤師）	20人
2	令和4年7月21日	第 2 4 回在宅医療ケア勉強会	訪問看護師が教える、在宅で利用者さんが転倒した時の対応！	W L I F E 訪問看護センター 譜久村翔（看護師）	16人
3	令和4年9月14日	第 2 5 回在宅医療ケア勉強会	訪問診療ってどんなことしてるの？コロナ禍でどう変わった？	小金井ファミリークリニック 富永智一（医師）	16人
4	令和4年11月17日	第 2 6 回在宅医療ケア勉強会	無菌調剤のお困りごと一挙解決!!～在宅で安心できるターミナルケア～	府中サウス薬局 内田英伸（薬剤師）	15人
5	令和5年2月13日	I C T 研修会	科学的介護情報システム（LIFE）ってどんなもの？	株式会社ヘルプズ・アンド・カンパニー 西村栄一（コンサルタント）	37人
6	令和5年3月16日	第 2 7 回在宅医療ケア勉強会	神経難病の方の生活を支える～訪問看護の視点から～	訪問看護ステーション国立メ ディカルケアサテライトこきん 吉良桂子（看護師）	16人

令和 5 年度における各事業実施予定について

※ 小金井市在宅医療・介護連携推進のための基本方針（令和 2 年 10 月）から抜粋

【基本理念①】市民の視点に立ち、ともに考えながら、地域で安心して暮らせるよう医療・介護を提供する。

取組	①-1 小金井市医療資源マップの作成			
事業概要	市民に医療資源に関する情報を提供するため、医療資源マップを作成の上、配布する。			
事業区分	ア 地域の医療・介護の資源の把握			
成果指標	令和 2 年度 作成・配布	令和 3 年度 配布・検討	令和 4 年度 →	令和 5 年度 作成・配布

取組	①-2 介護サービス事業所一覧の作成			
事業概要	市民に介護資源に関する情報を提供するため、介護サービス事業所一覧を作成の上、配布する。			
事業区分	ア 地域の医療・介護の資源の把握			
成果指標	令和 2 年度 作成・配布	令和 3 年度 →	令和 4 年度 →	令和 5 年度 →

取組	①-3 患者基本情報シートの作成 ※（令和 3 年取組廃止決定）			
事業概要	入院時に病院が使用することを想定した患者基本情報シートを作成し、ケアマネジャーへ配付の上、運用を開始する。			
事業区分	ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進			
成果指標	令和 2 年度 検討・周知	令和 3 年度 取組廃止決定	令和 4 年度	令和 5 年度

※ 小金井市退院支援・退院調整フロー図の作成に変更。同フロー図を検討中。

【基本理念②】医療・介護の関係者が相互の立場を理解し、協力する。

取組	②-1 在宅医療・介護連携推進会議の実施			
事業概要	地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握・共有し、課題の抽出、対応策を検討する。			
事業区分	イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	実施	→	→	→

取組	②-2 小金井もの忘れ相談シートの活用			
事業概要	認知症に関する家族・相談機関が連携して支援を続けるための相談シートの普及啓発を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②-3 主治医連絡票の活用			
事業概要	主治医とケアマネジャーが共有し連携を取りやすくするため、連絡票の普及啓発を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②-4 ケアマネタイムの活用			
事業概要	医師と連絡が取りやすい方法、曜日、時間帯等を示した一覧の周知を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②－５ 情報共有研修会の実施			
事業概要	医療・介護事業者等の関係機関の情報共有に関する研修の開催、関係機関同士の情報共有の支援等を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
	実施	→	→	→

取組	②－６ 在宅医療・介護連携支援室の設置			
事業概要	在宅医療・介護連携に関する相談窓口を設置・運営することにより、連携の取組を支援する。			
事業区分	オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援			
成果指標	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
	実施	→	→	→

取組	②－７ 在宅医療ケア勉強会の実施			
事業概要	医療・介護事業者等の関係者に対して在宅医療・介護連携に関する研修等を実施する。			
事業区分	カ 医療・介護関係者の研修			
成果指標	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
	３回以上実施	→	→	→

取組	②－８ 北多摩南部保健医療圏リハビリテーション実施機関ナビの作成協力及び普及啓発			
事業概要	北多摩南部保健医療圏地域リハビリテーション支援センターが作成する実施機関ナビの作成協力・普及啓発を行う。			
事業区分	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携			
成果指標	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
	普及啓発	→	→	→

取組	②-9 近隣市在宅医療・介護連携支援室等との情報交換			
事業概要	近隣市の在宅医療・介護連携支援室職員との情報交換を行い、自治体間での連携を強化する。			
事業区分	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討・実施	実施	→	→

【基本理念③】 本人・家族に適切に情報を提供し、自己決定を支える。

取組	③-1 お元気サミット in 小金井の開催			
事業概要	在宅医療・介護連携に関する情報の普及啓発のため、講演会、シンポジウム等を開催する。			
事業区分	キ 地域住民への普及啓発			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	講座満足度 75%	講座満足度 77%	講座満足度 78%	講座満足度 80%

取組	③-2 在宅療養についてのリーフレットの作成			
事業概要	在宅療養に関する普及啓発のため、在宅療養リーフレットを作成の上、配布する。			
事業区分	キ 地域住民への普及啓発			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	作成・配布	配布	→	→

小金井市在宅医療・介護連携支援室 令和4年度 事業概要

1 在宅医療・介護連携に関する相談件数

医療機関				介護事業所				合計
病院	診療所	歯科	薬局	ケアマネジャー	訪問看護	訪問介護	その他	
7	2	0	3	12	4	0	12	40

2 在宅医療・介護連携に関する研修の実施状況

	開催日時	内容	参加者										合計
			医療関係者					介護関係者					
			医師	歯科医師	薬剤師	看護師	MSW	その他	ケアマネジャー	訪問看護	介護職	その他	
第1回	令和4年 5月17日	訪問薬剤師さんのお仕事って？～事例を元に理解しよう～	0	0	5	0	0	2	10	0	3	0	20
第2回	令和4年 7月21日	訪問看護師が教える、在宅で利用者さんが転倒した時の対応！	0	0	1	0	0	0	11	0	4	0	16
第3回	令和4年 9月14日	『訪問診療ってどんなことしてるの？コロナ禍でどう変わった？』	1	0	3	0	0	1	9	0	0	2	16
第4回	令和4年 11月17日	無菌調剤のお困りごと一挙解決!!～在宅で安心できるターミナルケア～	0	0	8	0	0	0	5	0	0	2	15
第5回	令和5年 3月16日	神経難病の方の生活を支える～訪問看護の視点から～	1	0	3	0	0	1	9	0	0	2	16

3 関係機関の情報共有に関する研修の実施状況

	開催日時	内容	参加者										合計
			医療関係者					介護関係者					
			医師	歯科医師	薬剤師	看護師	MSW	その他	ケアマネジャー	訪問看護	介護職	その他	
第1回	令和5年 2月13日	科学的介護情報システム(LIFE)ってどんなもの？	9	2	1	0	1	1	11	2	7	3	37

4 その他

- ・在宅医療ケア勉強会(旧ケアマネ勉強会)開催(5/17,7/21,9/14,11/17,3/16)
- ・会議等出席(小金井市在宅医療・介護連携推進会議、三市看護責任者及び地域医療支援会議、武蔵野赤十字病院会議杏林在宅医療緩和ケアカンファレンス、ほか)
- ・視察等(武蔵野市・西東京市・国分寺市・三鷹市ほか)
- ・部会運営(日常療養支援・多職種連携研修部会、入退院支援部会、急変時対応・看取り支援部会、ICT連携部会)
- ・多職種連携研修会の開催準備等
- ・看取り講演会開催 等

小金井市在宅医療・介護連携推進会議各部会における検討状況について

	日常療養支援・多職種連携研修部会	入退院支援部会	急変時対応・看取り支援部会	I C T連携部会
開催日	令和4年度第3回：令和5年3月15日（水） 令和5年度第1回：令和5年5月17日（水） 令和5年度第2回：令和5年6月20日（木）	第1回：令和5年5月25日（木）	第1回：令和5年4月21日（金）	第1回：令和5年4月19日（水）
目指す姿	本人が安心できる場所で専門職の支援を受けながら穏やかに暮らすことができる。	入退院の際に、医療機関・介護事業所等が情報共有を行うことで、本人・家族が望む場所で、不安なく穏やかに日常生活を過ごすことができる。	各ステージで食支援に対応できるチームが増えるとともに、本人・家族が納得できる看取りに向けて準備ができる。また、自宅か病院かで心が揺れていても、希望に応じた選択ができるように体制を整える。	【部会としての目指す姿】 医療と介護の連携をI C Tにてそれぞれ円滑に行うようにする。
検討状況の概要	【令和4年度第3回】 ①第14回多職種連携研修会の検討を行った。 ②日常療養時における目指す姿達成に向け、検討を行った。スムーズなサービス導入へつなげるためには、在宅医療・介護が始まる前からの準備が必要であることから、当該段階の市民に対し、適切な情報提供を行うこととした。 【令和5年度第1回】 ①第14回多職種連携研修会の検討を行った。 ②第15回多職種連携研修会の検討を行った。 【令和5年度第1回】 ①第14回多職種連携研修会の検討を行った。	入退院支援時における目指す姿達成に向け、「小金井市版退院支援・退院調整フロー図（以下「フロー図」という。）」を作成することを決定済みであり、フロー図に係る検討を行った。	急変時対応・看取り支援における目指す姿達成に向け、今期の実施策について検討を行った。	①L I F E研修会の振り返りを行った。 ②今年度の研修会について検討を行った。
決定事項等	第14回多職種連携研修会を次のとおり実施予定 日時：令和5年9月6日（水）午後7時から 場所：萌え木ホールA・B会議室 テーマ：「新型コロナウイルス感染症を経験して」（グループワーク） 講師：在宅医療・介護連携推進室	現在のフロー図案は情報が多いことから、必要最低限の情報を記載する。	パンフレットを改訂の上、配布済み 今年度もお元気サミット・介護みらいフェスにて市民講座を実施する。 目指す姿の前半と後半に分けて、議論を深める。	I C T研修会を次のとおり実施予定 ①M C S研修会 日時：令和5年10月6日（金）午後7時から 場所：東京都小金井歯科医師会 講師：I C T連携部会 ②退院時カンファレンス研修会 日時：未定 場所：W e b開催 講師：I C T連携部会
次回	第3回：令和5年11月7日（火）	第2回：令和5年9月14日（木）	第2回：令和5年7月5日（水）	第2回：令和5年7月31日（月）

会 議 録					
令和4年度第3回 日常療養支援・多職種連 携研修部会		日 時	令和5年3月15日(水) 午後7時～午後8時10分	場 所	Web会議
事務局		小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	部会長 伊藤 直樹 (みずたま介護ステーション) 副部会長 柳堀 明久 (陽なたりハビリデイサービス) 部会員 穂坂 英明 (前原診療所) 部会員 平田 晋一 (平田歯科医院) 部会員 古屋 裕康 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 田村 亮一 (みなみ調剤薬局) 部会員 岩井 美香 (のがわ訪問看護ステーション) 部会員 久野 紀子 (にし地域包括支援センター)			
	事務局	介護福祉課包括支援係主任 岡崎 章尚 介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美			
欠席者		田代 誠子 (在宅介護サービスエンゼルの会)			
傍聴の可否		◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由			—		
次 第					
1 開会					
2 議題					
(1) 第14回多職種連携研修会・小研修会について					
(2) 日常療養時における課題に対する解決策について					
3 その他					
次回日程について					

1 開会

部会長挨拶の後、事務局から連絡事項の説明を行った。

2 議題

(1) 第14回多職種連携研修会・小研修会について

ア 事務局から資料1について説明した後、部会員から次のような意見があった。

- (7) 新型コロナウイルスの影響により実施できなかったグループワーク形式の研修について、令和5年5月以降再開しても良いのではないかと。
- (8) グループワーク形式の研修を再開する場合においても、いきなり100人規模の研修（以下「大研修」という。）を実施するのは難しく、屋外での実施や少人数に絞って実施する等、参加者の不安を取り除く工夫が必要と考える。
- (9) 二部制にする等、開催方法の工夫も考えられる。

イ 上記の意見を踏まえ、次のとおり決定した。

- (7) まずは、少人数に絞ってグループワーク形式の研修会（以下「小研修」という。）を実施する。大研修は小研修の様子を見て、再度検討する。
- (8) 研修の内容・テーマについては、MCSにて募ることとする。各部会員は、大研修・小研修それぞれに1人1つ以上提案することとする。

(2) 日常療養時における課題に対する解決策について

ア 事務局から資料2を用いて、検討の対象となる方の状態像として、既に在宅医療や介護サービスを受けている方に絞って検討を進めることの提案を行い、次のような意見があった。

- (7) 難病患者の方や第2号被保険者の方は、医療保険、介護保険、障害サービス等利用可能な制度が煩雑である。
- (8) 日常療養時における在宅医療・介護連携を進めるためには、在宅医療が始まる前の段階で適切に情報提供を行うことが重要である。

イ 上記の意見を踏まえ、次のとおり決定した。

- (7) スムーズなサービス導入へつなげるためには、在宅医療・介護が始まる前からの準備が必要であり、在宅医療・介護が始まる前の段階の市民に対し、適切な情報提供を行うこととする。
- (8) どういった情報をどのように市民へ提供していくかについては、次回以降引き続き検討することとする。

3 その他

次回予定 令和5年5月17日（水）午後7時から対面にて実施

会 議 録					
令和5年度第1回 日常療養支援・多職種連 携研修部会		日 時	令和5年5月17日(水) 午後7時～午後8時20分	場 所	市役所第二庁舎 801会議室
事務局		小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	部会長 伊藤 直樹 (みずたま介護ステーション) 副部会長 柳堀 明久 (陽なたりハビリデイサービス) 部会員 穂坂 英明 (前原診療所) 部会員 黒米 哲也 (西の久保歯科) 部会員 田村 亮一 (みなみ調剤薬局) 部会員 岩井 美香 (のがわ訪問看護ステーション) 部会員 久野 紀子 (にし地域包括支援センター)			
	事務局	介護福祉課包括支援係主査 浜松 俊彦 介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美			
欠席者		古屋 裕康 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 田代 誠子 (在宅介護サービスエンゼルの会)			
傍聴の可否		◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由			—		
次 第					
1 開会					
(1) 委員自己紹介					
(2) 部会長・副部会長選出					
2 議題					
(1) 在宅医療・介護連携推進会議について					
(2) 日常量支援・多職種連携研修部会について					
(3) 第14回多職種連携研修会について					
(4) 日常療養時における課題に対する解決策について					
3 その他					
次回日程について					

1 開会

- (1) 委員自己紹介
- (2) 部会長・副部会長選出

前期に引き続き、部会長に伊藤部会員を、副部会長に柳堀部会員を全会一致で選出

2 議題

- (1) 在宅医療・介護連携推進会議について
- (2) 日常療養支援・多職種連携研修部会について

事務局から、資料 1、2 を用いて説明

ア 介護予防や認知症について検討する場所はあるのか。

→ 介護予防については、議題が生じた場合には本部会となる。認知症については、認知症施策事業推進委員会という別の会議体があるのでそちらで検討される。

イ 部会等の意思決定はすべて親会議でなされるのか。また、事業に係る予算はどのような整理か。

→ 意思決定については、内容により異なるため全て親会議での承認が必要とはならない。予算については、検討の結果必要とされた予算については、市の事業として予算要求を行うことになる。

- (3) 第 14 回多職種連携研修会について

ア 人数を絞ったグループワークを実施する場合、職種ごとに定員を設定する等の対応は不要か。

→ 案内時点で職種に応じた定員で絞ることは困難なため、定員がある旨併せて通知し、グループ分けで対応したい。

イ 新型コロナウイルスが 5 類となり、対面での研修等も可能となったこのタイミングで、コロナ禍やポストコロナでの課題や解決方法について、この 3 年間の経験を踏まえてグループワークができればよいのではないか。

ウ イのテーマ設定はとても良いと感じる。タイムリーであるし、立場を超えた情報共有や、多職種で解決することが望ましい問題もある。

エ 歯周病菌がコロナウイルスの感染に影響があることやペロにある細胞から感染することが分かっていることから、コロナ予防に関して歯科でもできることがかなりあると考えている。このようなことを、多職種でも共有できればと思う。

オ コロナにいつり患するかわからない状況や、入院が制限され治療が遅れるといった事例もあったことから、ACP についてもう一度考えたい。

カ 通所介護では、コロナ禍において事業を中止した際に「よく止めた」や「やりすぎだ」と意見が二分したこともあり、そのような対応について通所介護内では共有できているが、職種を超えて状況等を聞くことができるとよい。

キ 開催時期については、他の研修の実施時期と重複しない時期を設定した方が参加者も参加しやすいと思われる。

【ア～キ等の意見を踏まえて、以下のとおり決定】

ク 内容は「新型コロナウイルス感染症を経験して」とし、この3年間で各職種どのようにコロナと向き合ったか、また、ポスト・アフターコロナも見据えてどのように対応していくかなど、広く新型コロナウイルスに関して情報共有を図る。

ケ 開催場所は萌え木ホールで、人数は60人程度を上限とする。開催時期は9月の夜開催とし、5日以降の月末を避けて会場が確保できた日とする。

コ 第15回多職種連携研修会については、ICT連携部会の退院時カンファレンス研修との合同研修とすることについては問題ない。

(4) 日常療養時における課題に対する解決策について

資料4の表の空欄について、次の検討機会までの宿題とすることに決定した。

3 その他

次回日程 令和5年6月20日（火）午後7時からオンラインで行う。

内容は、第14回多職種連携研修会の内容についてのみ検討し、概ね1時間以内とする。

会 議 録					
令和5年度第2回 日常療養支援・多職種連 携研修部会		日 時	令和5年6月20日(火) 午後7時～午後8時10分	場 所	WEB会議
事務局		小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	部会長 伊藤 直樹 (みずたま介護ステーション) 副部会長 柳堀 明久 (陽なたりハビリデイサービス) 部会員 穂坂 英明 (前原診療所) 部会員 黒米 哲也 (西の久保歯科) 部会員 古屋 裕康 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 田村 亮一 (みなみ調剤薬局) 部会員 岩井 美香 (のがわ訪問看護ステーション) 部会員 久野 紀子 (にし地域包括支援センター)			
	事務局	介護福祉課包括支援係主査 浜松 俊彦 介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美			
欠席者		田代 誠子 (在宅介護サービスエンゼルの会)			
傍聴の可否		◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由			—		
次 第					
1 開会					
2 議題 第14回多職種連携研修会					
3 その他 次回日程について					

1 開会

2 議題

第14回多職種連携研修について

事務局支援室川崎氏から、以下6点について整理事項の説明。整理事項に沿って検討。

(1) 開催人数について

前回定員を概ね60人程度と設定したところではあるが、萌え木ホールA・B会議室で60人規模のグループワークはかなり狭くなってしまう。応募状況にもよるがもう少し定員を絞ることについて問題ないか。

→了承。

(2) 募集開始後、応募が少ない、職種が偏っているなどの状況が生じた場合には、改めて委員から声掛け等の協力を依頼しても良いか。

→了承。

(3) グループワークの内容（多職種で共有するもの・目標等）

ア 新型コロナウイルス感染症を経験した、というだけではなく、次の感染症等が生じた際に、今般の経験を踏まえての対策等を多職種で共有できる場とするのが良いのではないか。結論まで求めるものではないが、次につながるような内容が出てくるのが望ましい。

イ アの意見に非常に近いが、今般の経験を踏まえて消毒の方法、アルコール等の準備、各種補助金活用の情報など、次への備えとなるような話があればよいと思う。

ウ 独居の方が発熱したケースでは、対応に苦労した職種も多かったと思う。当時生じた課題に対して、どのような体制、支援、連携があればよかったのかを意見を出し合い、今後に活かしていければよいのではないか。

エ ケアマネジャー間でも3月頃に話し合いを持った。ケアマネジャーが受診同行したり、自身がり患するなどの話が合った。多職種連携の話し合いであればケアマネジャーは調整役としての役割もあるため、問題点や今後の課題、新たなサービスの提案などを取りまとめていくというのはどうかと考えた。

オ 自分の職種では直接り患者と関わる機会はなかったもので、実際に対応した方の話には興味がある。一案として、グループごとに主体の職種を決めて、その主体を中心に話し合いを進めていくというのはいかがか。

カ 新興感染症が生じた際に、良くわからなかったが為に入らなくなってしまい、そのことに対するリスクなどあったと感じている。報告会にならないよう、良くわからないものが出てきた際にどうすればよいのか、のように前向きな話になると良いと思う。

キ 自分の職種も積極的にり患者と関わる機会はなかった。今回の感染症を通して皆がどのようなことに困って、どのように対応したかということが聞けるだけで大変参考になる。またそれを受けて、次に生じた際のステップとなればと考える。

ク 「新型コロナを経験して」だけだと話し合いが漠然としてしまう恐れがあるので、困難だったこと、消毒のことなど項目建てして、その項目に基づき話し合いをした方が良いのではないか。

ケ り患者の話だけではなく、濃厚接触者への対応などもあったと思う。そうすると、各項目についても時間軸を分けて話をした方が良いのではないか。

【ア～ケ等の意見を踏まえて、以下のとおり決定】

コ 項目は、①高齢独居者への対応②予防・消毒等③集団内で留意事項の3項目とし、グループ分け後にグループごとに事前に項目を設定するか、いずれかを選んでもらい話し合う。

サ 参加者は話したいことがたくさんあると思うが、大変だったことを労いあうだけでなく、次につながるような結論が出てくることが望ましい。

(4) 今後の実施スケジュール（報告）

7月下旬：研修開催通知送付

8月中旬：参加メ切。グループ分け

(5) 当日について（報告）

基本的に、委員もグループワークに参加する。

司会・進行・タイムキーパーは川崎氏が行う。

(6) 開会・閉会の挨拶について

開会：穂坂委員

閉会：伊藤部会長

3 その他

次回日程 令和5年11月7日（火）午後7時から。

WEB、対面等の開催方法については、その時の状況に応じて決定する。

会 議 録				
令和5年度第1回 入退院支援部会	日 時	令和5年5月25日(木) 午後7時～午後8時10分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委員	部会長	執行 真之 (ひがこ訪問看護ステーション)	
		副部会長	出川 恵美 (居宅介護支援事業所つきみの)	
		部会員	竹田 溪輔 (竹田内科クリニック)	
		部会員	瀬口 秀孝 (桜町病院)	
		部会員	古田 菜々 (小金井リハビリテーション病院)	
		部会員	菊田 拓也 (菊田歯科医院)	
		部会員	水越 新人 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック)	
		部会員	佐藤 雅彰 (アトム薬局)	
		部会員	高橋 徹 (小金井ひがし地域包括支援センター)	
	事務局	介護福祉課主査	濱松 俊彦	
介護福祉課包括支援係主任		石井 哲平		
小金井市在宅医療・介護連携支援室		川崎 恵美		
欠席者	部会員 天野 秀達 (花物語こがねいナーシング)			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由			—	
次 第				
1 開会				
(1) 部会員紹介				
(2) 部会長・副部会長選出				
2 議題				
(1) 在宅医療・介護連携推進会議について				
(2) 前任期の振り返り				
(3) 退院時カンファレンス研修について				
(4) 小金井市退院支援・退院調整フロー図に係る検討				
3 その他				

1 開会

(1) 部会員紹介

部会員から自己紹介を行った。

(2) 部会長・副部会長選出

指名推薦により全会一致で執行部会員を部会長に、部会長指名により出川部会員を副部会長に選出

2 議題

(1) 在宅医療・介護連携推進会議について

事務局から資料 1 及び 2 を用いて説明を行った。

(2) 前任期の振り返り

事務局から資料 3 を用いて説明を行った。

(3) 退院時カンファレンス研修について

研修に関して I C T 連携部会等から依頼があった際には、入退院支援部会として協力することを確認した。

(4) 小金井市退院支援・退院調整フロー図に係る検討

事務局から資料 4・5 を用いて説明を行った後、次のとおり検討を行った。

ア フロー図（たたき台）を改めて見ると時期が細かく分類されているが、全ての時期で情報のやり取りを行うのは現実的ではない。また、各時期における確認項目も多いため、整理が必要であると感じる。

イ 現場の人たちが使いやすいものでないと、最終的には使われなくなってしまうので、そういった観点でフロー図を作成していき、試行的に現場で使う中で、精度を上げていくのが良い。

ウ フロー図には最低限必要な情報（例：A D L、家族等の周辺環境、本人・家族の希望、服薬状況等）を記載するのが、負担感なく使用でき良い。

エ 病院としては、①入院時、②退院前に在宅となるか・施設入所等になるかを判断したい時に情報のやり取りを行いたい。

オ 現在は疾患ごとにほしい情報を整理しているが、疾患によりほしい情報は異なるものの、フロー図で全てを網羅するのは困難であるため、まずは全疾患共通のものから始めるのが良い。

カ 診療情報提供書や看護サマリ、リハサマリ、おくすり手帳のコピー等を添付することで不足する情報を補足するのも良い。

キ フロー図で入院時と退院時の状況の変化が比較できると良い。

ク 本フロー図について、まずは、市内の病院と市内在宅チームで使用していくことを想定する。またフロー図を使用することでどの症例においても同水準の情報共有ができることを目的とする。

ケ 上記を基に事務局にて再度フロー図のたたき台を作成し、次回部会にて検討する。

3 その他

次回予定 令和5年9月14日（木）午後7時から

会 議 録				
令和5年度第1回 急変時対応・看取り支援部会	日 時	令和5年4月21日(金) 午後7時～午後8時	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委 員	部会長 大井 裕子 (桜町病院) 副部会長 譜久村 翔 (WLIFE訪問看護センター) 部会員 宮本 諭 (宮本内科医院) 部会員 飯塚 央子 (武蔵野中央病院) 部会員 黒田 俊太郎 (黒田歯科医院) 部会員 高橋 賢晃 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 長澤 由起子 (薬剤師会) 部会員 小嶋 理絵 (あんずケアプランセンター小金井) 部会員 齋藤 敦 (にこにこサービス) 部会員 高野 美子 (小金井きた地域包括支援センター)		
		事務局	介護福祉課主査 濱松 俊彦 介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美	
欠席者	部会員 天野 秀達 (花物語こがねいナーシンググループホーム)			
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由			—	
次 第				
1 開会				
(1) 部会員紹介				
(2) 部会長・副部会長選出				
2 議題				
(1) 在宅医療・介護連携推進会議について				
(2) 前任期の振り返り				
(3) 今任期の活動について				
① パンフレット				
② 市民講座				
③ その他				
3 その他				
次回日程について				

1 開会

(1) 部会員紹介

事務局から部会員の紹介を行った。

(2) 部会長・副部会長選出

指名推薦により全会一致で大井部会員を部会長に、部会長指名により譜久村部会員を副部会長に選出

2 議題

(1) 在宅医療・介護連携推進会議について

事務局から資料 1 及び 2 を用いて説明を行った。

(2) 前任期の振り返り

事務局から資料 3 を用いて説明を行った。

(3) 今任期の活動について

事務局から資料 4 を用いて説明を行った後、次のとおり検討を行った。

① パンフレット

ア 各所属にて会員数や必要部数を確認の上、事務局に報告する。昨年度は各自印刷で対応した経過があり、製本されたものは残っていない。

イ 郵便局や銀行待ち時間に手に取ってもらえるような場所への配架方法については、事務局にて確認する。

② 市民講座

ア 動画については市ホームページに掲載し、適宜活用する。

③ その他

ア 今期は目指す姿である「各ステージで食支援に対応できるチームが増えるとともに、本人・家族が納得できる看取りに向けて準備ができる。また、自宅か病院かで心が揺れていても、希望に応じた選択ができるように体制を整える。」を前半と後半で担当分けし、議論を深めていく。

イ 目指す姿の前半部分の議論をする中で、看取り講演会の対象（職種）や内容についても検討する。

ウ 作成したパンフレットを、どう活用していくかについても検討していきたい。

エ 食支援について、一般の歯科では、身体機能が安定している時期に、終末期を見据えて、できることを考える方がイメージしやすいと思う。終末期においては、訪問診療医や看護師、ケアマネジャーから歯科医や多摩クリニックに依頼をするケースがほとんどである。

オ 目指す姿の後半部分の議論においては、実施済みの医療機関向けのアンケートを活用できるのではないかと考えている。当該アンケートでは病院との連携を深めたいとの意見が多数あったため、その方策も検討していきたい。

カ お元気サミットでは、基本的に昨年度実施した市民講座を引続き行うこととし、必要に応じて変更を加える。

3 その他

次回予定 令和5年7月5日（水）午後7時から

会 議 録				
令和5年度第1回 ICT連携部会	日 時	令和5年4月19日(水) 午後7時30分～午後8時55分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委 員	部会長 田中 功一 (田中整形外科) 副部会長 戸原 雄 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 内山 雅之 (うちやまクリニック) 部会員 橋詰 雅志 (歯科診療室 橋詰) 部会員 中原 昌則 (伯雲堂薬局) 部会員 曾我 信也 (パーソナルケアサービス小金井かいわい) 部会員 清水 智恵 (訪問看護ステーション国立メディカルケアサテライト) 部会員 田口 重和 (みなみ地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課主査 浜松 俊彦 介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	大山 美奈子 (小金井太陽病院) 前田 芳博 (指定居宅介護支援事業所赤とんぼ) 立岡 慎哉 (桜町聖ヨハネホーム)			
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		-		
次 第				
1 開会 (1) 新任委員紹介 (2) 部会長・副部会長選出 2 議題 (1) 在宅医療・介護連携推進会議について (2) ICT連携部会について (3) 令和4年度第2回ICT連携研修(LIFE研修会)振り返り (4) 令和5年度の本部会の取り組み(研修内容・MCS普及啓発等) 3 その他				

1 開会

(1) 新任委員紹介

1名の改選（MSW選出：大山部会員）について紹介。

(2) 部会長・副部会長選出

前期に引き続き、部会長に田中部会員を、副部会長に戸原部会員を全会一致で選出。

2 議題

(1) 在宅医療・介護連携推進会議について

(2) ICT連携部会について

- ・ 事務局から資料1、2を用いて説明

(3) 令和4年度第2回ICT連携研修（LIFE研修会）振り返り

事務局から資料3を用いて説明した後、意見交換。

ア 今後、医療と介護のDX（デジタルトランスフォーメーション）に関して詳しい人がいれば聞く機会があってもよい。

イ 介護事業所は、デジタルツールの使用がまだまだ苦手な印象がある。部会の役割として、そのような事業所等の底上げが求められるのではないか。

(4) 令和5年度の本部会の取り組みについて（研修内容・MCS普及啓発等）

前回の議事録を基に、本年度の取り組みの方向性について説明した後、協議を行い、次のとおり決定した。

ア（ICTを活用した）退院時カンファレンス研修については、ICT連携部会主催研修の扱いとし、入退院支援部会と連携して実施する。

イ 5月25日開催の入退院支援部会で、本研修を議題の一つとして設定し、部会間での情報の共有を図る。

ウ 研修内容は、寸劇的な形式を基本とし、実際のカンファレンスに参加したことがない、または参加回数が少ない方でも、今後の参加に対する抵抗を減らせるような内容が望ましい。

エ シナリオ等は、一定のリアリティが必要と思われることから、カンファレンスに参加経験の多い部会員の意見を中心として、既存の病院の文書等を参考にまとめていく。

オ MCS研修会については、歯科医師会で実施する。ただし、対象者は歯科医師に限定しない。

カ 内容は、MCSの操作の基礎とし、MCSの詳細や個人情報にかかる説明は特に行わない。

キ 歯科医師会の先生方への周知はメールで行い、参加については支援室へ申し込んでいただき、支援室が利用者登録の案内（招待メール）を返信する。

ク 退院時カンファレンス研修とMCS研修会は、昨年同様MCS研修会を先に実施する。

開催時期は10月中とし、歯科医師会が使用可能な日程で日時を調整する。
（7日、14日、19日、23日、24日、30日、31日を除く）

3 その他

ア 次回予定 令和5年7月31日（月）午後7時30分～

（田中部会長から）

イ 医師会内でのMCSの普及啓発のため、ケアマネタイムを利用し、MCS登録無の医療機関へのアプローチを考えている。

ウ こがねい医療介護連携ネットワークの情報更新の案内があるので、各自ご協力を願いたい。

小金井市在宅医療・介護連携推進のための基本方針について

1 目的・背景

在宅医療・介護連携の推進を図るには、医療・介護の関係機関の協力、情報と意識の共有のために、市の目指す理想像、方針を示す。

2 策定までの経過

令和元年度第1回在宅医療・介護連携推進会議において、同事業にて定めた理想像とキャッチコピーにある姿を目指すため、基本方針を定めるほうが望ましいことが確認されたことを受け、令和2年度にかけて同会議において検討を行う。

令和2年度第2回の同会議において、検討結果をまとめた基本方針を、市の基本方針とすることを決定した。

3 留意事項

本方針は、第8期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画の計画期間と整合を図っていくため、令和2年度から令和5年度までの4か年を計画期間としていることから、第9期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画（計画期間：令和6年度から令和8年度まで）策定に合わせて、改訂が必要である。

なお、本方針は現在の部会体制となる以前の令和2年10月に策定している。

4 改訂における検討事項

(1) 改訂の方向性

- ① 全面改訂
- ② 一部改訂

(2) 改訂内容等

(1)の方向性に関わらず、改訂すべき内容や盛り込むべき事項について

(例：取組の内容の見直し、部会での検討状況や検討すべき事項の反映等)

5 事務局からの提案事項

(1) 改訂の方向性

一部改訂

(理由)

- ・ 上位計画である、現在策定中の第9期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画について、本方針を全面改訂するほどの大幅な変更予定がないこと。
- ・ 本事業のマニュアルともいえる「在宅医療・介護連携推進事業の手引き Ver. 3 (令和2年9月 厚生労働省老健局老人保健課)」は本基本方針策定後に改訂されているが、主な改訂内容が4つの場面の取組例の追記であり、以下(2)アの部会機能の記載で対応できること。

(2) 改訂内容等

ア 部会機能の記載

イ これまでの部会等での検討内容の反映

ウ その他

6 改訂までのスケジュール

(1) 第1回在宅医療・介護連携推進会議 (本日)

- ・ 改訂の方向性の検討



たたき台の作成

(2) 第2回在宅医療・介護連携推進会議 (令和5年10月)

- ・ たたき台を基に、内容の検討



追記・修正

(3) 第3回在宅医療・介護連携推進会議 (令和6年2月)

- ・ 内容の確認



追記・修正

(4) 令和6年4月1日 施行

小金井市在宅医療・介護連携推進のための基本方針

令和2年10月

小金井市

1 背景・目的

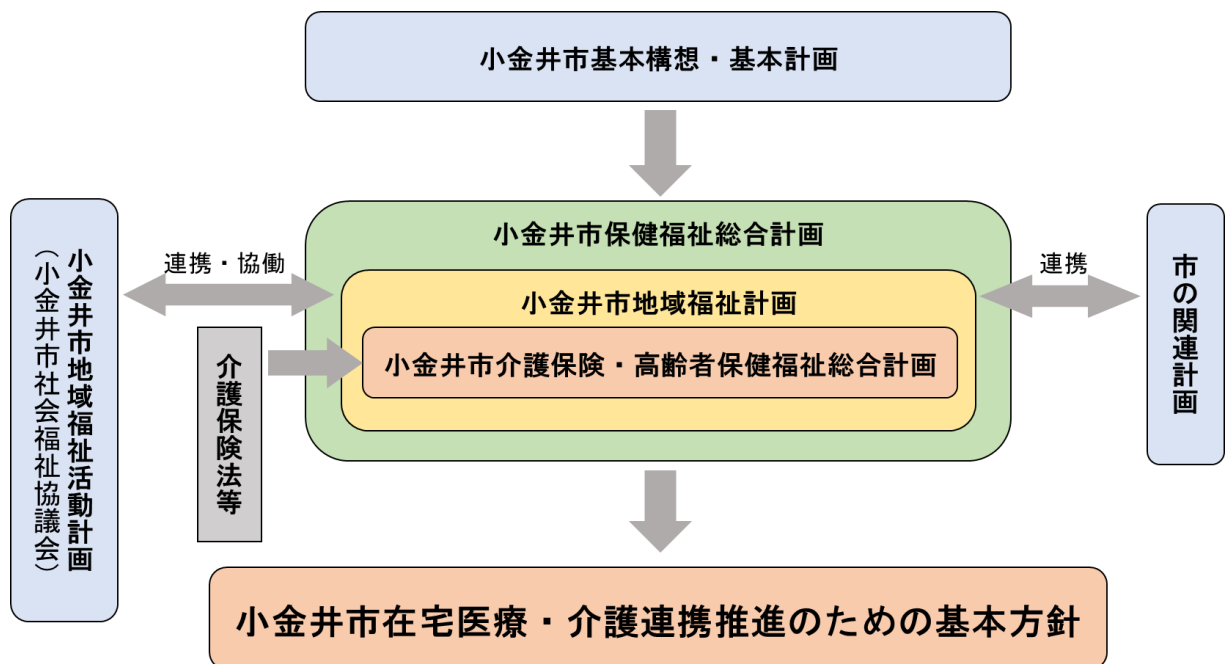
我が国では超高齢化が進展する中で、いわゆる団塊の世代が75歳以上となる2025年を目処に、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の医療・介護の関係団体が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療と介護を一体的に提供するために必要な支援を行うことが求められています。

市では、第4次小金井市基本構想・基本計画を定め、福祉と健康づくりのための施策大綱を「誰もが安心して暮らせる思いやりのあるまち」と定めています。この大綱を実現するため、第2期小金井市保健福祉総合計画及び同計画に包含される第7期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画を定め、医療と介護の連携に取り組んできました。しかし、在宅医療・介護連携の推進を図るには、医療・介護の関係機関の協力、情報と意識の共有が必要となるところ、市の目指す理想像、明確な方針が示されていませんでした。

このため、市及び市内医療・介護関係者が在宅医療・介護連携の推進に向けた取組を行うための旗印となる「在宅医療・介護連携推進基本方針」を策定することとしました。

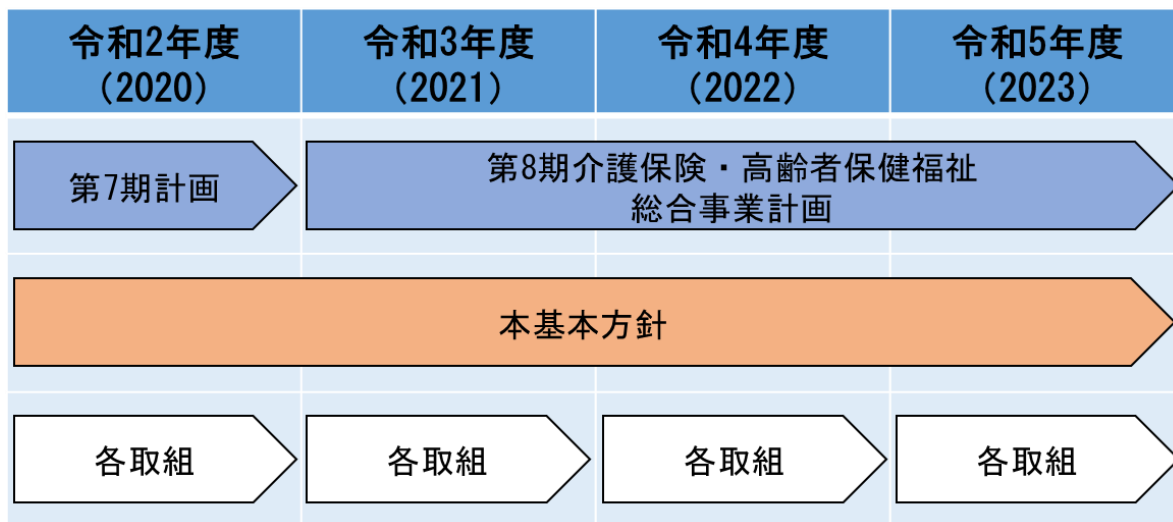
今後は、この基本方針に基づき、多くの市民が住み慣れた地域で最期を迎えられるよう在宅医療・介護連携を推進していきます。

2 位置付け



3 スケジュール

本方針は、第8期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画の計画期間と整合を図っていくため、令和2年度から令和5年度までの4か年を計画期間としています。目指すべき理想像の達成へ向けて、各事業のPDCAサイクルを展開していきます。



4 理想像とキャッチコピー

「なぜ在宅医療と介護の連携に取り組む必要があるのか」という認識の共有を市と地域の医療・介護関係者間で図るとともに、目標と課題に則した対応策の立案やその実効性を高めるため、市の在宅医療・介護連携推進事業が目指す理想像とキャッチコピーを小金井市在宅医療・介護連携推進会議における検討を経て、次のとおり決めました。

小金井市の在宅医療・介護連携推進事業が目指す理想像

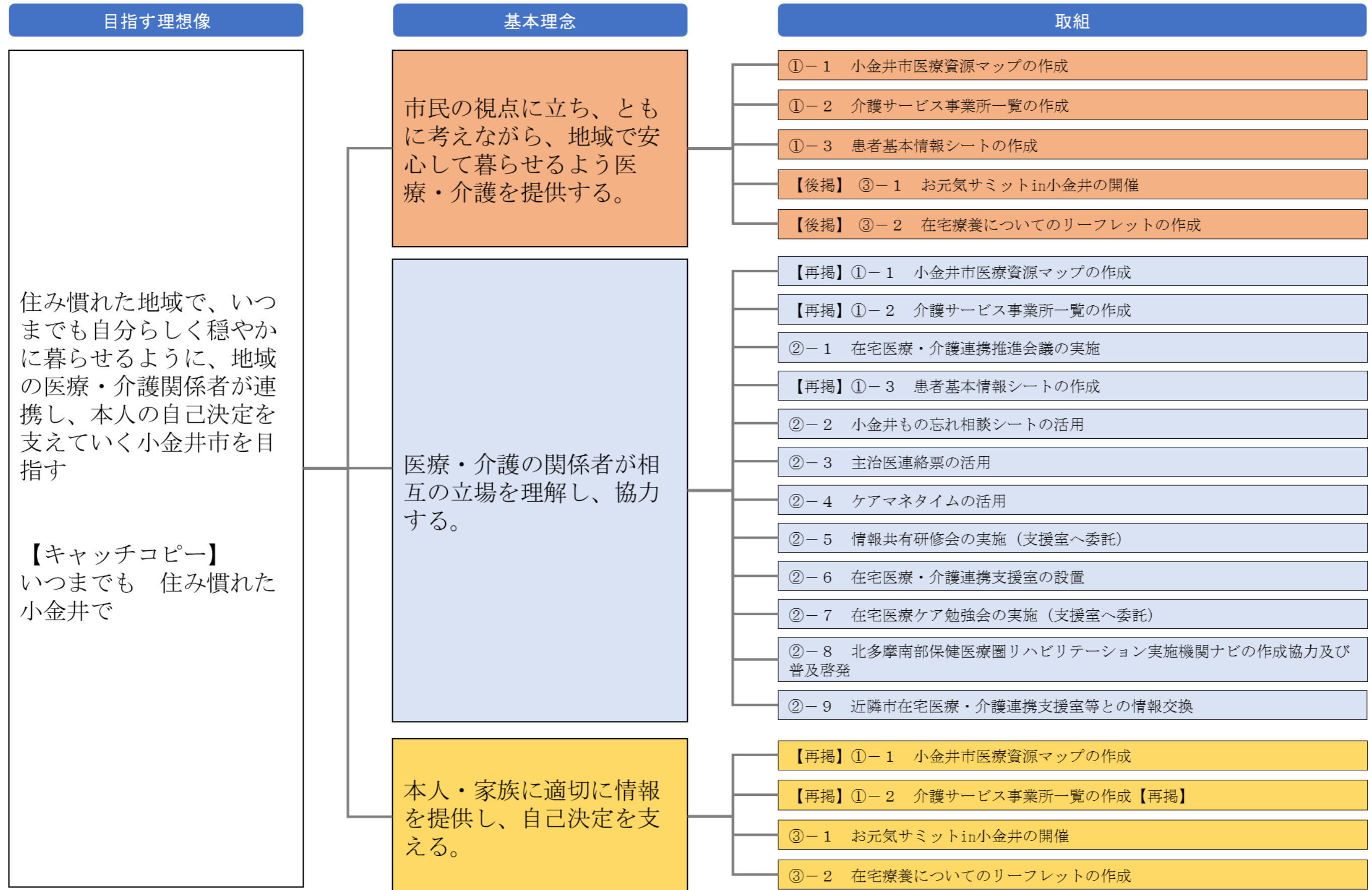
**住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく
穏やかに暮らせるように、地域の医療・
介護関係者が連携し、本人の自己決定を支
えていく小金井市を目指す**

小金井市の在宅医療・介護連携推進事業が目指す理想像のキャッチコピー

いつまでも 住み慣れた小金井で

5 体系図

目指す理想像を実現するための基本理念、基本理念を達成するための取組を小金井市在宅医療・介護連携推進会議における検討を経て、次のとおり決めました。



6 在宅医療・介護連携推進事業の事業内容

介護保険法（平成9年法律第123号）第115条の45では、介護保険制度の円滑な実施の観点から、市が要介護状態等となることを予防するとともに、要介護状態等となった場合においても、可能な限り、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援する地域支援事業を定めている。その地域支援事業実施要綱では、市が行うべき在宅医療・介護連携推進事業について、次のとおり定めている。

<p>ア 地域の医療・介護の資源の把握</p> <p>地域の医療機関、介護事業所等の住所、機能等を把握し、これまでに自治体等が把握している情報と合わせて、リスト又はマップを作成する。作成したリスト等は、地域の医療・介護関係者間の連携等に活用する。</p>
<p>イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討</p> <p>地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状の把握と課題の抽出、解決策等の検討を行う。</p>
<p>ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進</p> <p>地域の医療・介護関係者の協力を得ながら、切れ目なく在宅医療と介護が一体的に提供される体制の構築に向けて必要となる具体的取組を企画・立案する。</p>
<p>エ 医療・介護関係者の情報共有の支援</p> <p>情報共有の手順等を定めた情報共有ツールを整備する等、地域の医療・介護関係者の情報共有を支援する。</p>
<p>オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援</p> <p>地域の在宅医療・介護連携を支援する相談窓口の運営を行うために、在宅医療・介護の連携を支援する人材を配置し、地域の医療・介護関係者、地域包括支援センター等からの、在宅医療・介護連携に関する事項の相談を受け付ける。また、必要に応じて、退院の際の地域の医療関係者と介護関係者の連携の調整や、患者、利用者又は家族の要望を踏まえた、地域の医療機関等・介護事業者相互の紹介を行う。</p>
<p>カ 医療・介護関係者の研修</p> <p>地域の医療・介護関係者の連携を実現するために、多職種でのグループワーク等の研修を行う。また、必要に応じて、地域の医療関係者に介護に関する研修、介護関係者に医療に関する研修を行う。</p>

キ 地域住民への普及啓発 在宅医療・介護連携に関する講演会の開催、パンフレットの作成・配布等により、地域住民の在宅医療・介護連携の理解を促進する。
ク 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携 複数の関係市町村が連携して、広域連携が必要な事項について協議する。

7 各取組の進捗を図る指標

【基本理念①】市民の視点に立ち、ともに考えながら、地域で安心して暮らせるよう医療・介護を提供する。

取組	①-1 小金井市医療資源マップの作成			
事業概要	市民に医療資源に関する情報を提供するため、医療資源マップを作成の上、配布する。			
事業区分	ア 地域の医療・介護の資源の把握			
成果指標	令和2年度 作成・配布	令和3年度 配布・検討	令和4年度 →	令和5年度 作成・配布

取組	①-2 介護サービス事業所一覧の作成			
事業概要	市民に介護資源に関する情報を提供するため、介護サービス事業所一覧を作成の上、配布する。			
事業区分	ア 地域の医療・介護の資源の把握			
成果指標	令和2年度 作成・配布	令和3年度 →	令和4年度 →	令和5年度 →

取組	①-3 患者基本情報シートの作成			
事業概要	入院時に病院が使用することを想定した患者基本情報シートを作成し、ケアマネジャーへ配付の上、運用を開始する。			
事業区分	ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進			
成果指標	令和2年度 検討・周知	令和3年度 運用	令和4年度 →	令和5年度 運用・見直し

【基本理念②】医療・介護の関係者が相互の立場を理解し、協力する。

取組	②-1 在宅医療・介護連携推進会議の実施			
事業概要	地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握・共有し、課題の抽出、対応策を検討する。			
事業区分	イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	実施	→	→	→

取組	②-2 小金井もの忘れ相談シートの活用			
事業概要	認知症に関する家族・相談機関が連携して支援を続けるための相談シートの普及啓発を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②-3 主治医連絡票の活用			
事業概要	主治医とケアマネジャーが共有し連携を取りやすくするため、連絡票の普及啓発を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②-4 ケアマネタイムの活用			
事業概要	医師と連絡が取りやすい方法、曜日、時間帯等を示した一覧の周知を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②-5 情報共有研修会の実施			
事業概要	医療・介護事業者等の関係機関の情報共有に関する研修の開催、関係機関同士の情報共有の支援等を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	実施	→	→	→

取組	②-6 在宅医療・介護連携支援室の設置			
事業概要	在宅医療・介護連携に関する相談窓口を設置・運営することにより、連携の取組を支援する。			
事業区分	オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	実施	→	→	→

取組	②-7 在宅医療ケア勉強会の実施			
事業概要	医療・介護事業者等の関係者に対して在宅医療・介護連携に関する研修等を実施する。			
事業区分	カ 医療・介護関係者の研修			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	3回以上実施	→	→	→

取組	②-8 北多摩南部保健医療圏リハビリテーション実施機関ナビの作成協力及び普及啓発			
事業概要	北多摩南部保健医療圏地域リハビリテーション支援センターが作成する実施機関ナビの作成協力・普及啓発を行う。			
事業区分	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	普及啓発	→	→	→

取組	②－9 近隣市在宅医療・介護連携支援室等との情報交換			
事業概要	近隣市の在宅医療・介護連携支援室職員との情報交換を行い、自治体間での連携を強化する。			
事業区分	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討・実施	実施	→	→

【基本理念③】 本人・家族に適切に情報を提供し、自己決定を支える。

取組	③－1 お元気サミット in 小金井の開催			
事業概要	在宅医療・介護連携に関する情報の普及啓発のため、講演会、シンポジウム等を開催する。			
事業区分	キ 地域住民への普及啓発			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	講座満足度 75%	講座満足度 77%	講座満足度 78%	講座満足度 80%

取組	③－2 在宅療養についてのリーフレットの作成			
事業概要	在宅療養に関する普及啓発のため、在宅療養リーフレットを作成の上、配布する。			
事業区分	キ 地域住民への普及啓発			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	作成・配布	配布	→	→